

10. 活動の広がり・深まり

生活科は、具体的な活動や体験を通して学ぶ学習です。この活動を考えていく時に、ただ、子供がやりたいことを活動に移していくだけでは生活科の目標である『自立への基礎を養うこと』にはつながっていきません。

一つの活動から、さらに活動が広がったり、深まったりする活動の内容や質が問題とされるのです。そこで、子供の活動をいかに広げたり、深めたりしていくのかを、教師が子供の活動を見取りながら計画に生かしていくことが大切です。

活動の広がり・深まりとは

活動の広がりとは、一つの活動から他の活動へ発展していくこと、つまり、子供がかかわる対象や活動形態が広がっていくことをさす。

また、活動の深まりとは、質の高い情意的欲求に支えられた活動であり、目標に近付くことである。活動の深まりでは、次のことが活動中に見られることが大切である。

- ・目標に近付いている
- ・活動の動機が、情意的欲求から知的欲求へと変化している
- ・活動の質の高まりがみられる

—— 実践から ——

「どんぐりごまを作ろう」という学習で、作ったこまを試して遊ぶ場を設定します。子供は夢中になってこまを作り、できあがったら、うまく回るかどうか試してみます。また、友だちと競いながら、「もっと回るようにしよう」と、こまを作り直したり、回し方を工夫したりする姿が見られます。それは、活動が深まった証です。

また、そのこま回しの活動から他の素材に目を向け、他の素材を使ったこま回しを始めたり、一人でのこま回しから友だちと競うことで、こま回し大会へと発展していったりすることもあります。それは、活動が広がった証です。生活科では、このように一つの活動から、それが広がったり、深まったりすることが大切です。